

イソチアニル粒剤 ルーチン粒剤	取扱メーカー： クミカ、バイエル、ホクサン 原体メーカー： 住友化学・バイエル
成分： イソチアニル〔チアジアゾールカルボキサミド系〕…3.0%	性状： 類白色細粒 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】

- いもち病の発病前に処理する事によって、いもち病を長期間予防する。また、細菌性病害の白葉枯病に対しても効果がある。
- は種前から収穫30日前までと幅広い処理時期がある。
- 浸透移行性に優れ、長い残効性がある。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

〈育苗箱施用〉

- 濡れた葉に薬剤を処理しない。苗に露などが付いている場合は、薬剤処理前にあらかじめ露を払い落としておく。
- 薬剤処理後は葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く灌水して薬剤を土になじませてから移植する。

〈本田使用〉

- 10 a 当り1kgを均一に散布する。
- 葉いもちの初発前(収穫30日前)までに散布する。

【薬効・薬害等の注意】

- 本剤を床土又は覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用する。
- 混和処理した床土又は覆土を放置しない。また余った処理済の培土を他作物に使用しない。
- 湛水散布に当っては、湛水状態（水深3～5cm）で散布し、散布後少なくとも7日間は湛水状態を保ち、田面を露出させず、落水及びかけ流しをしない。
- いぐさ栽培予定水田では使用しない。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しない。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理する。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさける。

【安全対策上の注意】

- カブレやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

【適用と使用法】

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	育苗箱 (30×60×3 cm, 使用土 壌約5ℓ) 1箱当り 50g	は種前	1回	育苗箱の床土又は 覆土に均一に混和 する。	3回以内 (移植時ま での処理は1回 以内, 本田で は2回以内)
	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌)				育苗箱の床土に均 一に混和する。	
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)				育苗箱の覆土に均 一に混和する。	
	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時 (覆土前)		育苗箱の上から 均一に散布する。	
	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病		は種時 (覆土前)～ 移植当日			
稲	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	1 kg /10a	収穫 30日前 まで	2回 以内	湛水散布	3回以内 (直播では 種時又は移植 時までの処理 は1回以 内、 本田では2回 以内)